

『「ホームシック」実態調査』

女性の2人に1人は、「ホームシック」経験アリ！

新年度に入り、一人暮らしを始める人も多いこの時期。誰にも干渉されない自由な暮らしを満喫する人もいれば、頼れる人が近くにいない生活に戸惑う人もいる。

今回、キャリアルーノ編集部(株式会社オウチーノ/本社:東京都港区/代表:井端純一)は、一人暮らし経験のある20~39歳の男女1,240名に『「ホームシック」に関する実態調査』を行った。結果、男性で30.7%、女性では52.2%が、「一人暮らしをしていてホームシックにかかったことがある」と回答した。

■調査概要

有効回答 一人暮らし経験のある、20~39歳の男女1,240名(男性688名、女性552名)

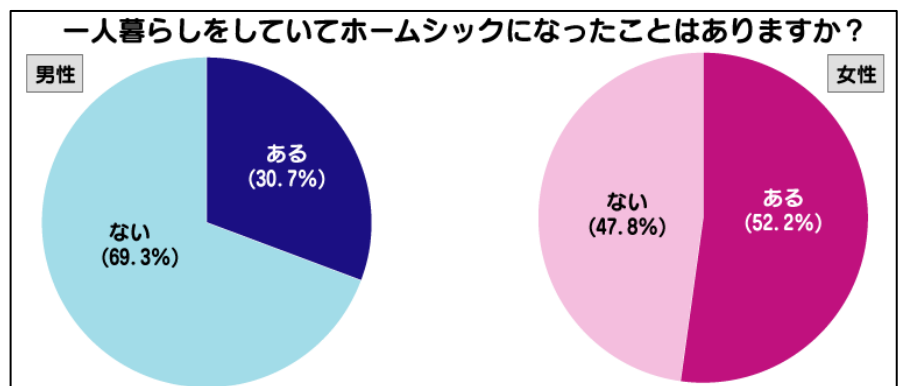
調査方法 インターネットによるアンケート調査

調査期間 2013年4月3日(水)~4月5日(金)

<詳しくはコチラ: <http://www.o-uccino.jp/cariruno/contents/toku/homesick.html>>

1. 「ホームシックにかかったことがある」と答えた女性、52.2%！

まず、一人暮らし経験のある20~39歳の男女に「一人暮らしをしていてホームシックにかかったことはありますか？」という質問をした。その結果、40.2%の人が「かかったことがある」と回答。また、男女別に見ると、「かかったことがある」と答えた男性は30.7%だったのに対し、女性はなんと52.2%と、2人に1人以上が一人暮らしをしていてホームシックにかかったことがあることが分かった。

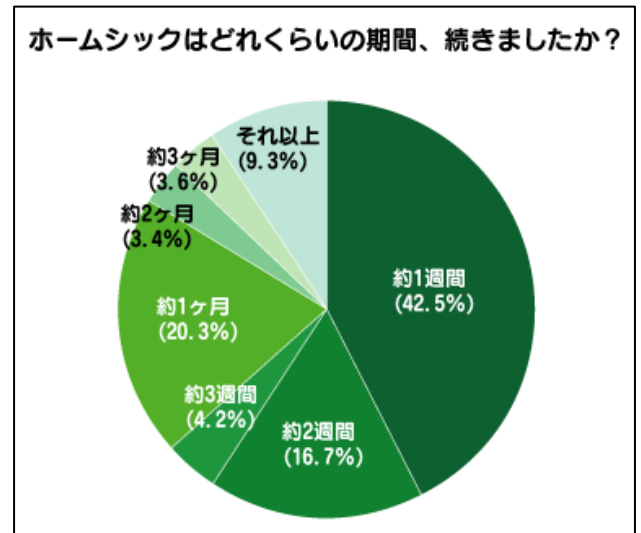
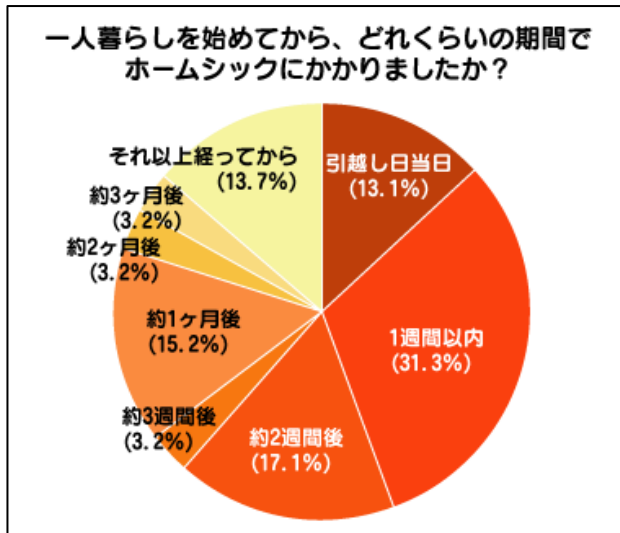


2. 44.4%が一人暮らし開始から1週間以内にホームシックに。

次にホームシックにかかるまでの期間を聞いた。もっとも多かったのが、一人暮らしを始めてから「1週間以内」で31.3%、次が「約2週間後」で17.1%、続いて「約1か月後」が15.2%だった。「引越し日当日」と「1週間以内」を合わせると44.4%と、やはり一人暮らし開始直後にホームシックにかかる人は多い。一方で、「約1ヶ月後」~「それ以上経ってから」と答えた人を合わせると35.3%となり、1ヶ月以上経ってホームシックにかかる人も少なくない。4月に進学、就職、転職をする人の中には、「五月病」や「六月病」にかかる人もいる。一人暮らしを始める人も、最初は気を張っていたものの、

ひと月、ふた月過ぎすなかで、大変さや寂しさを感じたり、疲れが出てくるなどして、家族や実家が恋しくなる人が多いのかもしれない。

また、今回はそのホームシックがどれくらいの期間続いたか、という質問もした。42.5%は1週間で解消したそうだが、一方で1ヶ月以上続いた人も36.6%いることが分かった。



3. ホームシック、約半数が「時間経過と共に解決」。

最後に、ホームシックを克服した方法を聞いた(複数回答可)。男女別に見ると、男性は、1位が「時間経過と共に解決した」で49.3%、2位が「友人ができた」で37.4%、3位が「夢中になれるものができた」で35.0%という結果になった。女性は、男性と同じく「時間経過と共に解決した」が1位で51.3%、2位が「家族と頻りに連絡した」で45.8%、3位が「友人ができた」で40.2%だった。

男女とも「時間経過と共に解決」が1位となった。2.の調査結果から、長くても1ヶ月もたてば、自然とホームシックが解消される場合が多そう。また、「友人ができた」と答えた人も男女ともに4割前後となった。

一方、「家族と頻りに連絡をとった」「頻りに帰省した」など、「家族とのコミュニケーション」によって克服した人は女性が男性を大きく上回り、逆に「夢中になれるものができた」では男性が女性を上回った。これは、「言語コミュニケーション」が得意な人が多いとされる「女性」と、「集中力」の高い人が多いとされる「男性」の特徴が表れた結果となった。

<詳しくはコチラ: <http://www.o-uccino.jp/cariruno/contents/toku/homesick.html>>

どのようにホームシックを克服しましたか？ (複数回答可)		
	男性	女性
1位	時間経過と共に解決 (49.3%)	時間経過と共に解決 (51.3%)
2位	友人ができた (37.4%)	家族と頻りに連絡をとった (45.8%)
3位	夢中になれるものができた (35.0%)	友人ができた (40.2%)
4位	家族と頻りに連絡をとった (28.1%)	頻りに帰省した (26.6%)
5位	頻りに帰省した (19.7%)	夢中になれるものができた (25.8%)